



そよ風

2026年
1~3月号
No.147

横浜市港北国際交流ラウンジ

KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

ふるさと港北ふれあいまつり

ごとうかいさい
合同開催

秋のヨコアリくんまつり



11月8日(土) 横浜アリーナで開催された「ふるさと港北ふれあいまつり」に港北国際交流ラウンジも参加しました。「秋のヨコアリくんまつり」と合同開催のこのまつりは、横浜アリーナを埋め尽くすほど様々な参加ブースで毎年大盛況です。今年は1階のメインアリーナ内のブースで、民族衣装の試着や撮影、外國語のじゃんけん、日本と世界の姉妹都市のクイズなどでたくさんの方々とのふれあいがありました。

メインアリーナは舞台もあり、世界のダンス、チアが行われていて会場はとても賑やかで熱気に包まれていました。その雰囲気のおかげかラウンジのブースにもお客様が途切れることはありませんでした。



「めったに着る機会がないから着てみようかな」とみんなでいろいろな民族衣装を着たり、初めての外國語のじゃんけんに興味津々のお子さんたちなどで盛り上りました。外國語のじゃんけんでは、中国語、韓国語とフィリピンのタガログ語のじゃんけんができました。参加者へのお土産が予想以上に早く品切れになり、追加でお菓子をお土産にするほどの盛況ぶりでした。

そんな中、中山竹春横浜市長もおいでください参加していた日本語学習者と記念写真を撮らせていただきました。学習者のひとりは撮影後に「え?今のは市長だったんですか!?すごい体験です!」と感激していました。

参加者それぞれに良い悪い出になつたでしょう。

ボランティア永年活動表彰式



10月12日ワクワクまつりの日にボランティア永年活動者の表彰式がありました。今年度は11名が表彰されました。

- ◆20年◆日本語教室部会から、篠木峯子さん。
 - ◆10年◆日本語教室部会から四元守さん、安澤佳子さん、早田圭子さん、吉田明子さん、占部重行さん、中嶋幸江さん、野村高明さん。
 - 交流企画部会から、明石素子さん、松本隆幸さん。
 - 情報広報部から、小杉茂次さん。
- 長年にわたる活動ありがとうございます。

わたし
私のボランティア活動 (No.30)

日本語教室 火曜日夜間クラス 鈴木 勝美 さん



わたしにほんごを始めたきっかけは、ラウンジで開催されていた英語講座を受講したことでした。講座仲間に勧められ、元々国際交流に興味があったことから、養成講座を受け、翌年から活動を始めました。来年で10年になりますが、よく続

いたなというのが素直な感想です。

学習者さんとの交流はとても楽しく、やりがいを感じる一方、色々と悩み、辞めようと思ったこともあります。でもここ数年でやっと落ち着き、毎週の活動が本当に楽しみになっています。

今まで様々な国からの沢山の学習者さんと関わってきました。特に印象に残っているのはインドからのインターン生、シャシヤンクさんです。ラウンジに来たときは、全くの初心者でしたが、3ヶ月位経った頃、お休みの連絡を日本語で電話してってくれたのです。上達の速さと、積極的に日本語を話そうとする態度に感動したことを覚えています。

活動の中で一番大変だった思い出は、初めてクラス代表になって最初の活動日です。慣れない代表で緊張しているところに、新規学習者が次から次へと訪れ、その数なんと15人。受付順に皆で手分けして面接し、とにかくそれぞれのグループに振り分けました。1人で5人も学習者を担当してくれたベテランボランティアなど皆さんのお陰でなんとか無事に初日を終えましたが、今までの人生の中で一番と言っても良いくらいに忙しい経験でした。

その他個人的な思い出として、コロナ禍の半年間、仕事をボランティア活動もなくなり、何もすることがなくなったのを幸い、以前から受けたいと思っていた日本語教師養成講座を受講することが出来ました。それまではよく理解していなかった文法も勉強することが出来、その後のラウンジでの日本語教室での活動にとても役に立っています。

これからも新しい出会いを楽しみに活動を続けていきたいと思います。

ミャンマーを知りたい

(ハローワールド)



9/13(土)、国際理解教室ハローワールドで「ミャンマーを知りたい」を開催しました。国の名前はよく聞くけどあまりよく知らないミャンマーについて、NPO法人リンクトゥミャンマー代表 深山沙衣子さんからお話をうかがいました。

ミャンマーには135の少数民族があり人口の30%ほど、70%はビルマ族で構成されています。

豊かな仏教文化があり仏塔(パゴダ)がたくさんあります。



また、仏教の影響で寄付(布施)文化が浸透しています。僧侶や僧院だけでなく、学校、病院、貧困家庭など幅広く寄付が行われたり、善行を積むのが功德とされています。

イラワジ川やインレー湖など水と暮らす方が多くいます。高床式の家に住み、豊富な魚を捕る漁業が盛んです。日本のような焼き魚より、煮たり揚げたりスパイシーな味付けが一般的だそうです。「モヒンガー」という麺料理はナマズのスープだそうです。



化粧や白焼け止めとして男女ともに使われている「タナカ」というものは、タナカの木をすりつぶして作られたもので、民族衣装のロンジーとともにお土産として人気があります。

ミャンマーの文化、食文化、水との暮らし、政治、在日外国人について、いま直面している問題など、様々なお話をたっぷり80分お話をいただきました。

最後はミャンマーのお茶とお菓子KOUNG MON(カクモン)をいただきながら、質疑応答タイムもありました。

今回のお話をきっかけにミャンマーのことを更に深く知っていただけたらと思います。



にほんごがくしゅうしゃじょうかい 日本語学習者紹介(No.42)

ベトナム出身ご夫妻

ホアン・ベン・チェンさん(チェン)

チャン・ティ・ズンさん(ズン)



チェンさんとズンさんご夫妻はふたりともラウンジの日本語教室に通っています。



Q.どちらのご出身ですか?

ズン. 夫(チェンさん)はベトナム北部のハイフォン、私(妻ズンさん)はベトナム建国の父とされるホーチミン氏の出身地である、中部のゲーアン県の出身です。ふたりはハノイ工科大学の日本語クラスで出会いました。日本に来た時期が違うので最初はベトナムと日本、日本国内でも勤務地が離れていたので、合計3年間の遠距離恋愛になりました。そして去年1月に結婚しました。

Q.日本の印象はいかがですか?

チェン. 空気や景色がきれいなところが好きです。連休には必ず旅行をしてたくさんの観光地に行きました。初めての旅行は沖縄でした。ソーキそばが好きになりました。青森は冬に行きました。-16度の八甲田山で撮った写真は結婚記念写真集の冬の部を飾っています。富士山は春と秋に撮った写真が結婚記念写真集にはいっています。

ふたりとも働いているのですが、仕事仲間は優しくてまじめですから、彼らから多くを学ぶことができます。ただ、働き方がベトナムと違っていて困ったこともあります。たとえば、「木ウレンソウ」です。これは上司と部下の間で報告、連絡、相談をすることで、みんなには当たり前なので言葉で説明されません。毎日書く業務記録を周りの日本人にチェックしてもらって、報告の仕方に慣れることができました。

ズン. 役所の人も親切ですが、役所の外には意地悪な人もいます。せっかく育てた家庭菜園の野菜が引き抜かれたときは寂しかったです。

日本のおいしい食べ物で好きなのは「たこ焼き」です。作り方

が面白くて楽しいので、たこ焼き器を買って自分たちで作るようになりました。

Q. ラウンジの日本語教室について聞かせて下さい。

ズン. 私にとって「この教室がなければ今の私はありません」と言うくらいの存在です。日本語を学びだけでなく、生活や日本語学習のモチベーションを上げてくれます。クラスが好きなので、仕事のあと疲れていても教室に行きます。家を買って赤ちゃんも生まれたので、これからもっと日本語の勉強が必要だと思っています。チェン. 私はパソコンで仕事をするので、仕事で日本語を使う機会が少なくて、最初の3年間はなかなかうまくなりませんでした。日本語教室の先生と一緒に勉強の方法を考えてくれて、教室の外でも勉強できるようになり、日本語が上達しました。上達には自信が一番大切だと思います。教室では間違えてもいいし、先生が優しいので自信ができます。

Q.ベトナムのおすすめ観光地を教えてください。

チェン・ズン. ベトナムは若い人が多いので笑顔で楽しい雰囲気です。料理も味がはっきりしているので是非楽しんでください。ハノイやダナン、ホー・チ・ミンはよく知られていると思うで、他のところを紹介します。



まず、紹介するのは南西部のタイ湾にあるフーコック島です。海がきれいです。ベトナムでいちばんきれいといわれる白い砂浜があります。イカ釣り体験もあります。それから、近くの島へ渡るロープウェイがあります。世界でいちばん長い7899.9mで、とても高いところを通るので眺めが良いです。フーコックの街並みや他の島も見えます。フーコック島ではカジノも楽しめます。

もうひとつは

サパです。北西部の高原で、景色が素晴らしいです。ファンシパン山は3,147



メートルで、インドシナ半島でいちばん高い山ですが、山頂までケーブルカーで行けます。そこから眺める雲海が素晴らしいです。山頂には金山宝勝寺というお寺があって仏塔や仏像を見ることができます。それから、東南アジア最大の棚田も美しくて、ベトナムの国家景観遺跡です。

こうほくちいきがくこうざ
港北地域学講座

こうほくこくさいこうりゅう ねん
港北国際交流ラウンジ 25年のあゆみ

国と港北区の好きな場所、習慣の違い、日本で困ったり不安に感じたことなどをお話しいただきました。外国人の方が日本のコミュニティで感じる難しさや不安の経験談は、意外にも「日本人同士でも同じように難しさを感じことがある」と共感の声が上がってきました。

また、やさしい日本語認定講師より、「やさしい日本語」で伝えることの大切さも学び、グループワークでは、外国人とともに暮らすために自分に何ができるか皆と一緒に考えました。

これからもっと、日本人と外国人がともに暮らしやすく活動しやすい町づくりを目指して、私たちも活動していきたいと思います。



11月22日（土）、港北地域学講座「外国人住民の声から学ぶ港北の今～港北国際交流ラウンジ 25年のあゆみ～」（主催：港北区区民活動支援センター）が開催されました。ちょうど、港北ラウンジが今年25周年ということもあり、ボランティアの皆さんと共に、私たちが 25年間日々取り組んできたことをご紹介させていただく良い機会となりました。一般で募った参加者の皆さんも、とても熱心に聞いてくださいり、多文化共生への関心の高さがうかがえました。

まず、横浜市に国際交流ラウンジが作られた背景（外国人住民の増加）と国際交流ラウンジの役割についてご説明しました。また、港北国際交流ラウンジでは実際にどのような事業を行っているのかをご紹介し、主力事業である「日本語教室」や「ニューカマー子どもの教室」については、ボランティアとして活動している方から詳しい説明と、活動を通して感じている思いややりがいについてもお話しいただきました。

外国人住民の本音トークコーナーでは、韓国・ベトナム・ギリシャ出身のスピーカーの方々から、自分の

伝統文化『包む』のお話とワークショップ

11月9日「日本の伝統文化『包む』のお話とワークショップ、ポチ袋作り」が開催されました。

約600年も前から伝わる包む文化と外国の包む文化との違いにもふれ、改めて日本文化の奥深さを学びました。



横浜市港北国際交流ラウンジ
KOHOKU INTERNATIONAL LOUNGE

〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町316-1
Tel 045-430-5670 Fax 045-430-5671
E-mail kohokulounge@yokohama.nifty.jp
ホームページ <https://kohokulounge.com/>

伝統文化体験教室

かどう
華道

1月26日（月）
1pm~3pm

参加費 fee

外国人 Non-Japanese 300yen
日本人 Japanese 600yen



しょどう
書道

2月3日（火）
1pm~3pm

参加費 fee

外国人 Non-Japanese 100yen
日本人 Japanese 200yen



Please make a reservation at the lounge reception.
Reservation can be made up one month in advance.



Website



Facebook



Instagram